

4. 津屋崎千軒まちなみガイドライン

① 高さをそろえる



① 高さをそろえる
のきさき

軒先の高さをそろえる

^{のきさき}軒先の連続性はまとまりのあるまちなみを感じさせるために重要な要素です。建物は、2階建てを基本とし、周囲の建物と軒を^{のき}そろえるようにしましょう。津屋崎のような2階建ての多いまちなみでは、^{ひさし}庇や^{ていかいそう}低階層のデザインを調和させるとさらに良好なまちなみになります。



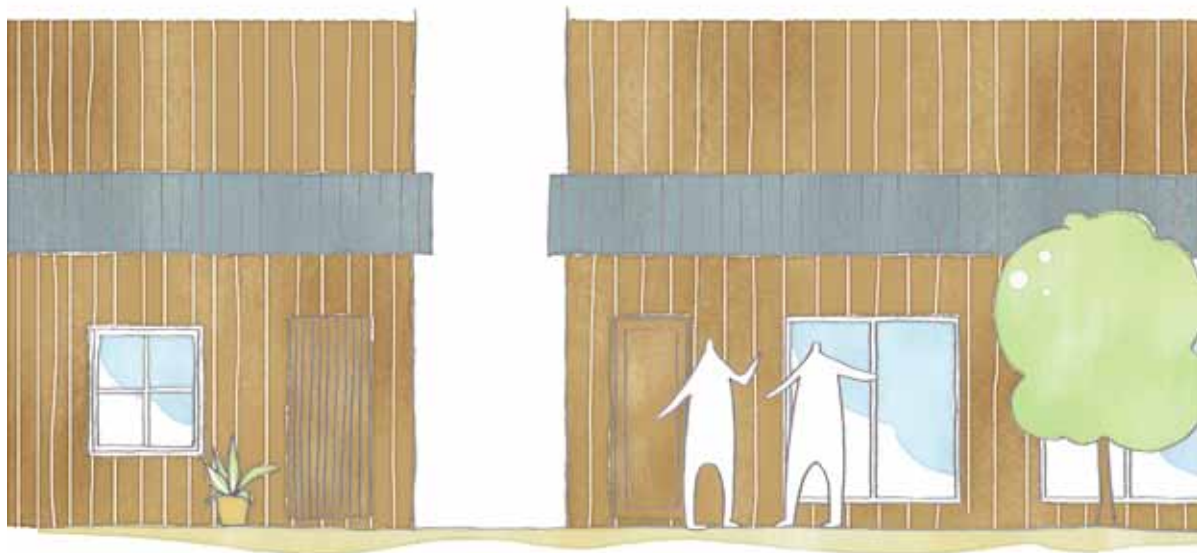
◎ 隣軒との軒先をそろえて連続させましょう



① 高さをそろえる

窓や扉の高さをそろえる

のきさき
軒先だけでなく、窓や扉の高さをそろえることでさらにまちなみの統一感が生まれます。できるだけ窓は近隣の住宅の高さに合わせ、扉は2mあたりの高さに抑えましょう。



◎ 窓や扉などの高さは周辺の建物に配慮しましょう

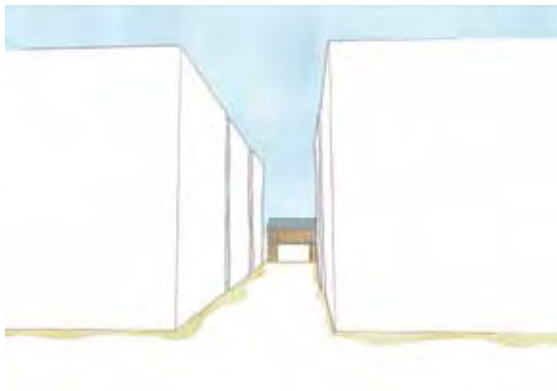


① 高さをそろえる

建物の高さをそろえる

圧迫感の少ないまちなみをつくるために、建物の高さに配慮する必要があります。
特に千軒通りのような歴史的要素が残存する空間では、低層^{ていそう}の建物の連続性により、
一体感のあるまちなみをつくる心がけが重要です。

隣接地^{りんせつち}に対しては、日照^{にっしょう}、通風^{つうふう}に配慮しながらも、建物の1つ1つが周辺環境に
調和するような高さを持つことで、統一感のあるまちなみになります。



△ 高層の建物が増えると街のシンボルである煙突
が見えなくなってしまう



◎ 2階建てが連続するまちなみの中では
街のシンボルが引き立ちます



① 高さをそろえる

建物の高さを抑える

津屋崎千軒は、現在高度地区^{こうどちく}に指定されているため、建物の絶対高さが定められています。階数^{かいすう}や階高^{かいだか}を抑え、建物の高さを 12m 以下とすることが必要です。このように高さをまち全体で統一することで、景観のまとまりが生まれていきます。

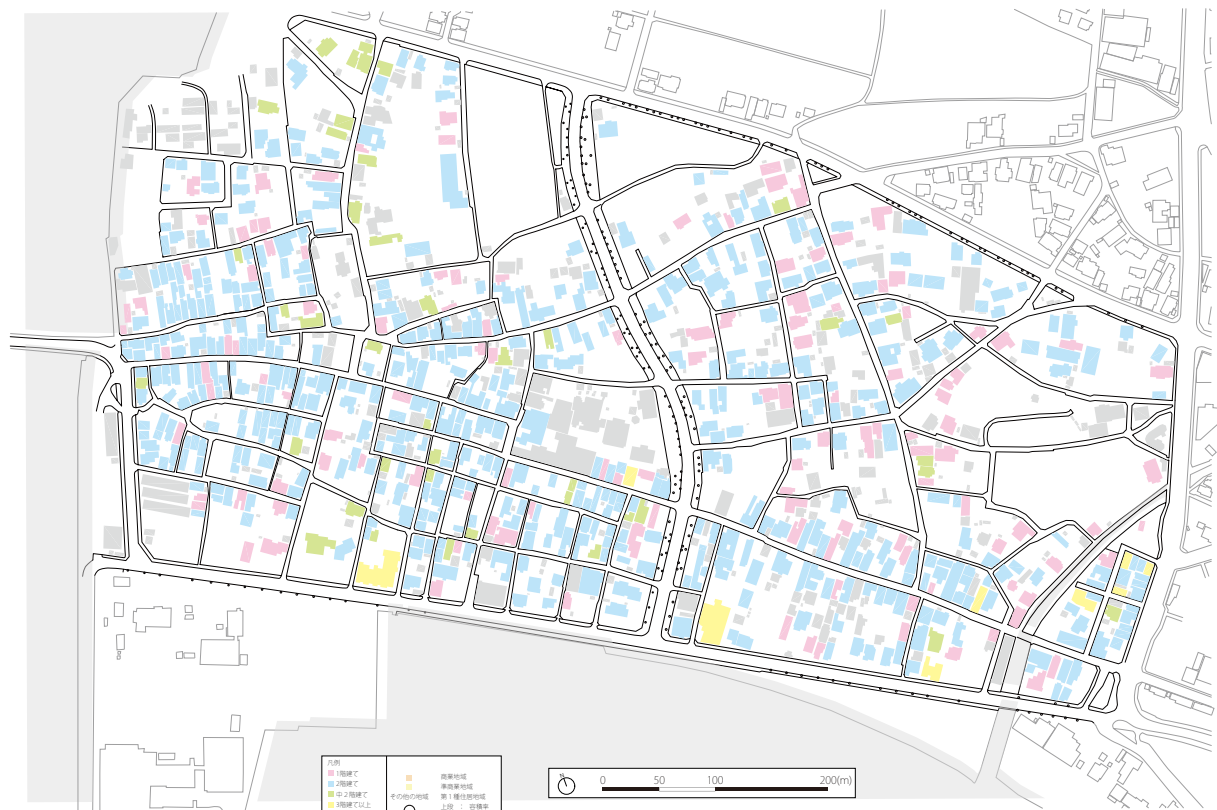
※高度地区：都市計画法第 9 条に定める「用途地域内において市街地の環境を維持し、又は土地利用の増進を図るため、建築物の高さの最高限度又は最低限度を定める地区」のこと。環境維持のために建築物の高さを制限したり、高度利用のために低さを制限したりする地区に定められる。高度地区内においては、建築物の高さは、都市計画で定められた内容に適合するものでなければならない。



△ 周辺になじまないような大きな建物は
規制されています



◎ 津屋崎は高度地区に定められています



建物高さ分布図

② へきめんせん 壁面線をそろえる



② 壁面線をそろえる

へきめん こうたい

壁面を後退する

3階建て以上の建物などは、^{へきめん こうたい}壁面後退させることで、建物の連続性をつくり、統一感のあるまちなみを保全します。

3階建て以上とする場合は、3階以上の^{へきめん}壁面を^{こうたい}通りから後退させて歩行者から見えにくくするなど、^{けいたい}形態、^{いしゅう}意匠を工夫し、周囲の景観との連続性を守るようにしましょう。



△ 2階建てが多いまちなみに3階建てが建つと
壁面の連続性がなくなってしまいます



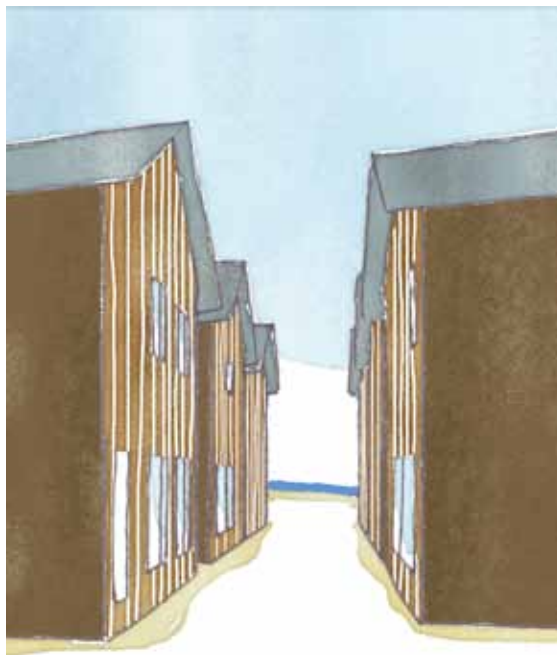
◎ 3階部分の壁面を後退させて連続性を
つくりましょう



② 壁面線をそろえる

建物相互の距離を保つ

津屋崎千軒にあるスアイの幅は平均して1.2m程度です。隣^{りんせつち}接地と相互に協力することで、隣^{りんどうかんかく}棟間隔を確保し、伝統的な共用空間であるスアイが生まれます。周辺環境に合わせて建物間の距離を保つことで、ゆとりのある空間が生まれます。



◎ スアイを活かすように建物の距離をとりましょう



② 壁面線をそろえる

かべ

壁同士でまとまりをつくる

連続する壁面^{へきめん}は、まとまりのあるまちなみを感じさせます。そのため、通りに面^{かべ}する壁の位置は、周囲より大幅に突出^{とっしゅつ}、または後退^{こうたい}させないようにしましょう。ただし、道路の幅が4m未満の場合は、建築基準法により道路中心線から2m後退^{こうたい}させる規定が優先されます。



△ 通りに対して壁面のまとまりが
なくなってしまう



◎ 壁面を連続させるようにしましょう



② 壁面線をそろえる

門や塀へいを設ける

駐車スペース等を確保するなど、やむを得ず建物を道路から大きく後退こうたいさせる場合は、壁面へきめんのようにデザインされた門、塀へい、植栽しょくさい等を設けるなど、まちなみの連続性に配慮しましょう。



△ 駐車場が住宅間に挟まれていると
まちなみが分断されてしまいます



◎ 門や塀を取り付けて壁面のそろったまちなみに
しましょう

③ デザインを工夫する

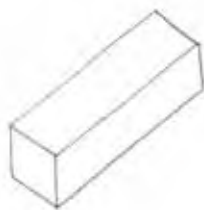


③ デザインを工夫する
こうばいやね

勾配屋根を用いる

伝統的な屋根景観を維持するためには、切妻、寄棟、入母屋などの勾配屋根を用います。

歴史的なまちなみの中では陸屋根は単調に見えるため、勾配を持った屋根が取り入れられるのが好ましいでしょう。勾配はなるべく3寸（約17°）以上が望ましいと考えられます。



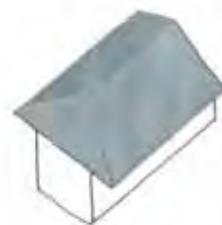
△ りくやね
陸屋根



○ きりつま
切妻



○ いりもや
入母屋



○ よせむね
寄棟



屋根のスケールを合わせる

軒先側を玄関とする平入りの建物が残る津屋崎のまちなみでは、屋根の形状や大きさによって隣家と軒先をそろえ、通りの景観を整えてきました。通りに対して平入りの勾配屋根を基調とし、屋根の勾配や大きさ、材料をそろえて、周辺となじむような屋根を設けましょう。屋根のスケールをまち全体で統一していくことで、まちなみの保全、形成を図ることができます。



△ 屋根の勾配や形式が変わると統一感が
損なわれます



◎ 平入りの勾配屋根が続くと統一感が
生まれます

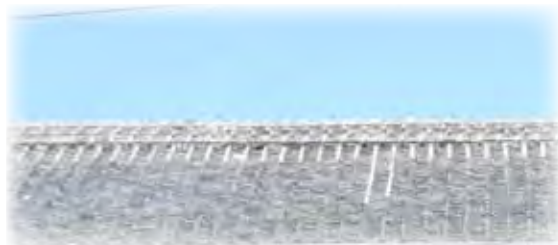


屋根のデザインを工夫する

歴史的なまちなみを持続するために、屋根の材料は和瓦^{わがわら}を基本とします。屋根の色彩としては、和瓦^{わがわら}、平板瓦^{へいばんがわら}、銅板^{どうばん}のような屋根材を用いるときは原則として素材色とします。その他の屋根材を用いる場合、全ての色相^{しきそう}において、明度^{めいど}は2.5以上5.5未満、彩度^{さいど}は0.5以下程度にするように心がけ、周囲と調和する色彩を用いましょう。



いりもや ひらい
入母屋の平入り屋根



和瓦の素材色



おにがわら いしょう
鬼瓦の意匠



のきうら
軒裏の仕上げ



③ デザインを工夫する

壁のデザインを工夫する

外壁の伝統的な意匠^{いしょう}には、漆喰^{しっくい}、板張^{いたばり}、木製格子^{もくせいこうし}などがあります。このような、伝統的に受け継がれてきている意匠^{いしょう}をそれぞれの建物が取り入れて工夫することによって、まち全体のまとまりや連続性が生み出されます。建物の外壁^{がいへき}は、自然素材に見られるような、黄赤、黄、無彩色系の色相で、3以下程度の彩度^{さいど}、7以下程度の明度^{めいど}の色彩を基本的に用いるようにしましょう。漆喰^{しっくい}、板張^{いたばり}、土壁^{つちかべ}等の自然系素材を用いる場合にはこれ以外の色でもかまいません。



しっくい
漆喰



いたばり
板張



もくせいこうし
木製格子



つちかべ
土壁



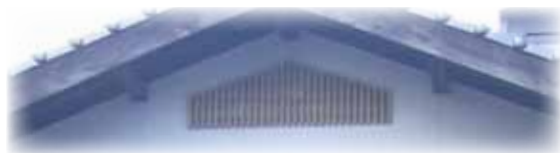
③ デザインを工夫する
たてぐ

建具のデザインを工夫する

建具^{たてぐ}の意匠は歴史的なまちなみを感じさせる要素です。木製格子^{もくせいこうし}や虫籠窓^{むしこまど}などを設置^{もくせい}する場合は、津屋崎の伝統的な様式とします。その場合、木製建具^{たてぐ}を基本とし、木製以外とする場合は黒、茶系統^{しきそう}の色彩としましょう。それ以外の色彩を用いる場合は、壁面^{へきめん}と同様の色相を用いましょう。



もくせいこうし
木製格子



むしこまど
虫籠窓

④ 外構をしつらえる



④ 外構をしつらえる

駐車場の位置に気をつける

通りに対してそろった壁面線^{へきめんせん}は、津屋崎のまちなみの魅力のひとつです。

駐車場を設置するときは、通りに面する壁面線^{へきめんせん}をそろえるために、通りに面する場所は避けて裏通りに設置することが望ましいでしょう。もし、通りに駐車場が面するときには塀や生け垣を作るなどの工夫をしましょう。



△ 駐車場によって壁面線が途切れてしまいます



◎ 柵を作ると壁面線がつながります



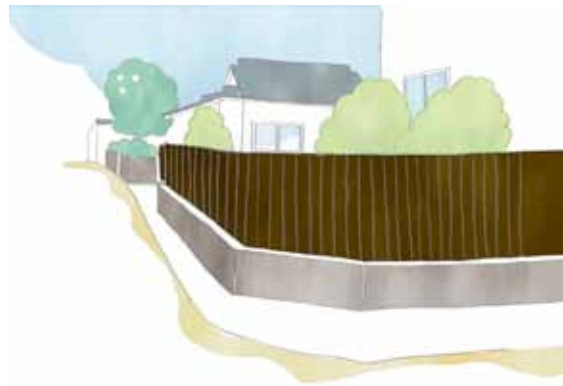
④ 外構をしつらえる

塀や柵を設置する

周りの環境や法律の制約によって、壁面後退するときや、通りに面して駐車場を作るときには、塀や柵を設置して、周りの建物と壁面^{へきめん}を整えるようにしましょう。通りに面する建物の壁やデザインがそろっていることで、まちなみの統一感が保たれます。



△ 壁面線が「でこぼこ」になってしまいます



◎ 駐車場の位置によって調和が生まれます



④ 外構をしつらえる

まちを緑で飾る

津屋崎はいろいろな木や花が植えられています。玄関先にプランターを置いて住宅の周りを飾る人も多くいます。木や花の存在は、育てている人だけでなく、まちを歩く人の心を和ませてくれます。庭に木を植えたり、玄関先に花を置いて、まちを緑で飾ってみましょう。



◎ 緑のあふれる美しいまちなみ



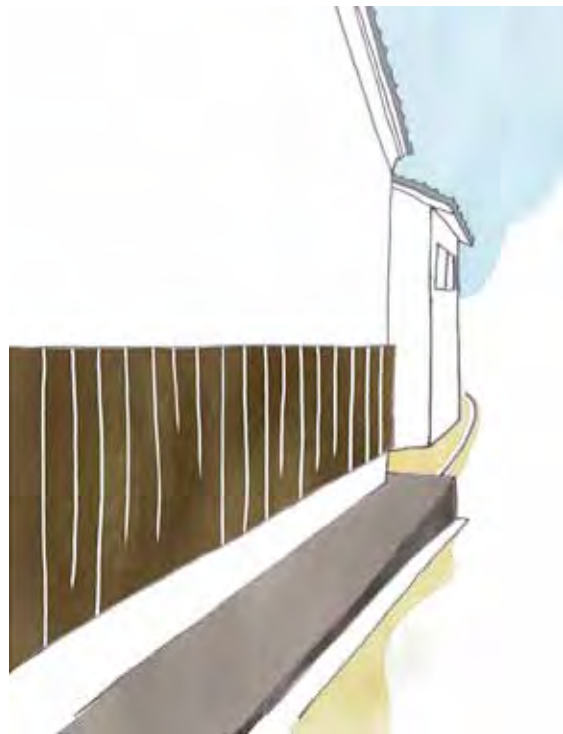
④ 外構をしつらえる

ゴミ箱の位置に気をつける

津屋崎の魅力は、まちの中を歩いて回ることによって感じることができます。住民や来客者がもっと歩き回りたくなるようなまちなみづくりのためには、通りから見えるさまざまな場所に注意を払いましょう。特に、通りに面した場所には、不要なものやゴミ箱を置かないようにしてみましょう。



△ ゴミ箱が目立ってしまいます



◎ 美しいまちなみが主役になります

⑤ 小物に気づかう



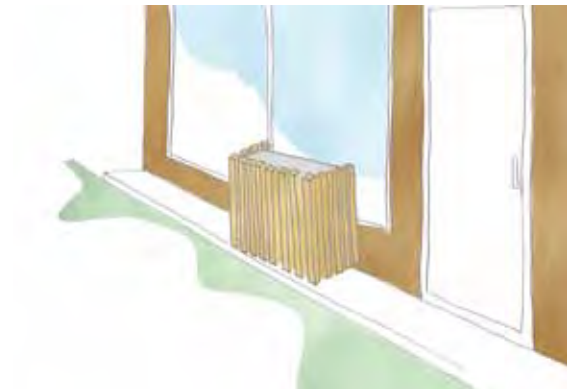
エアコンの室外機の場所に気をつける

エアコンの室外機の配置に気をつけましょう。まちなみの形成からだけでなく、近隣関係も重要です。

通りに面した場所に室外機を置く場合は、室外機カバーなどを設置するなどして景観に配慮しましょう。



△ 通りから室外機が見えてしまいます



◎ 室外機カバーを作るとまちなみに調和します



自動販売機の色は落ち着いた色にする

自動販売機には原色が使われているものがありますが、伝統的な津屋崎の要素にはありません。そのため、カラフルな色だけが目立ってしまいます。

自動販売機を設置するときには、設置者自らが、まちなみになじむような色を使うよう努力しましょう。また、回収箱の色にも注意しましょう。



△ 原色の自販機だけが目立ちます



◎ まちなみになじんだ自販機になります



⑤ 小物に気づかう

電柱・電線を移動させるときには相談する

電柱や電線があまりにも目立つと、まちなみの魅力が弱くなってしまいます。

電柱や電線は公共の工作物ですので、移設するときには、行政機関や電力会社に相談しましょう。



△ 電柱と電線によって、
空が分断されてしまいます



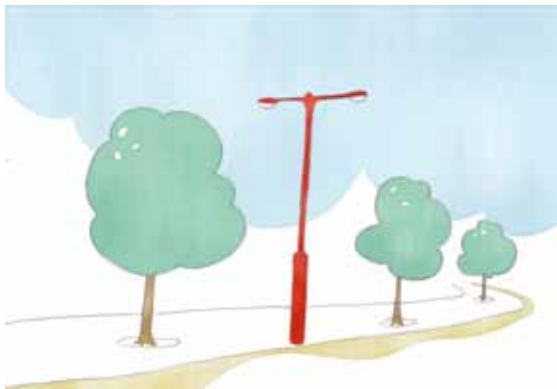
◎ 空とまちなみが調和します



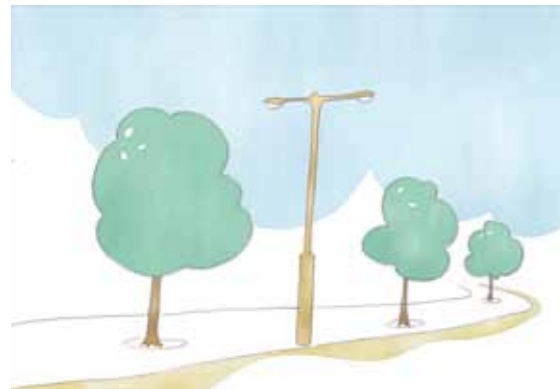
⑤ 小物に気づかう

まちなみにとけ込む街灯にする

街灯はデザインによって、主役にも脇役にもなることができます。津屋崎のまちなみを引き立てるために、色や形に気をつけて名脇役になるデザインにしましょう。たとえば、黒系や茶系の色を使用すると、津屋崎のまちなみになじみ、海や木々の緑が引き立ちます。



△ 街灯が木々や空から浮いてしまいます



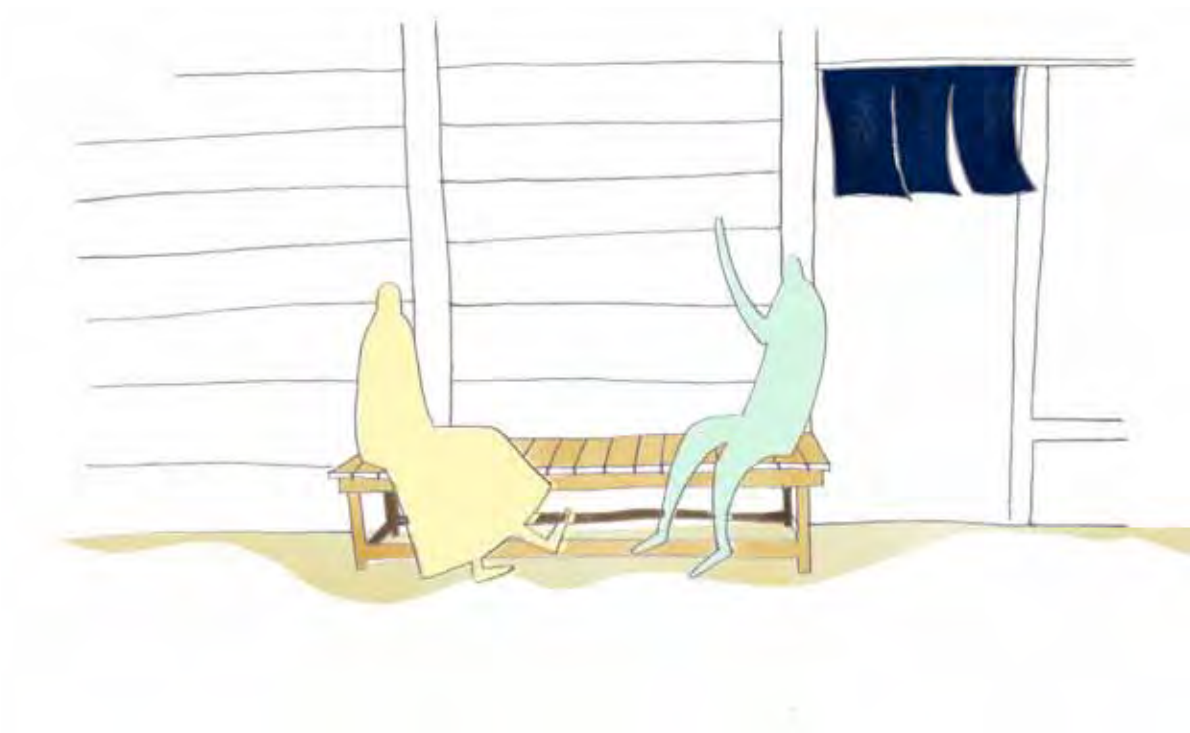
◎ まちなみに配慮した街灯にしましょう



トコやバンコで生まれる交流

津屋崎では、昔から店先にトコを置く習慣があります。トコは、畳1帖くらいの縁台のようなものです。以前は現在ほど住宅が広くなかったため、トコを出して、子どもの遊び場や大人のコミュニケーションの場として利用されていました。また、町内の行事には、トコを寄せ集めて利用するなどしていました。

まちなかでちょっとしたお話しをする場として、店先や家の前にトコやバンコを置いてみましょう。



◎ トコ（バンコ）で交流が活性化します

⑥ 伝統的な空間を生かす



⑥ 伝統的な空間を生かす
ちわり

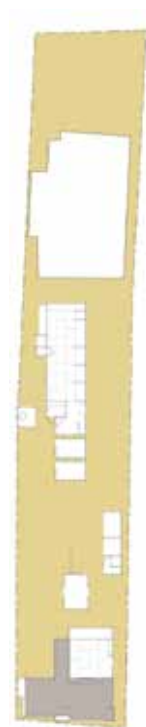
地割を生かす

江戸時代には間口^{まぐち}の幅で課税されていたので、通りに面した間口が狭く、細長い敷地形状が特徴です。以前は敷地の形状を生かすために、通り土間や中庭をしつらえていました。私たちもこの細長い地割^{ちわり}の特徴を生かして、建物を建てましょう。



◎ 伝統的な住宅には土間や中庭が使われています





土間
 中庭



スアイのある風景

スアイは、建物と建物の間にある幅1m程度の伝統的な生活道のことで、日常生活での通行や火災・津波時の抜け道として利用されてきました。また、子供の遊び空間や地域のコミュニケーション空間でもありました。

スアイは、人と人をつなぐ重要な緩衝帯でもあったのです。

スアイの精神を継承するために、新しく建物を建てるときには、建物と建物の間の空間に十分配慮しましょう。また、荷物や室外機などを置くときもスアイの意味を思い出しましょう。



◎ スアイ・ヒヤからの景色は津屋崎の魅力的な風景です

⑦ 色をそろえる



⑦ 色をそろえる

藍色を使う

まちなみに統一感を出すために、まちのイメージカラーを作るとはとても有効です。津屋崎には藍の家があり、またマップや看板の多くには藍色が使われています。新しくのれんや看板を作るときには藍色を使ってみましょう。



◎ 藍色が津屋崎のまちにまとまりを作ります

⑧ 広告物や看板はひと工夫する



⑧ 広告物や看板はひと工夫する

広告や看板の大きさに注意する

広告や看板は目立たせたいものですが、大きすぎる広告や看板を取り付けてしまうとそれだけが注目されてしまい、津屋崎のまちなみの魅力がぼやけてしまいます。広告や看板を取り付けるときには、津屋崎のスケール感に合った大きさにしましょう。



△ 大きな看板は津屋崎の魅力をぼやけさせます



◎ まちなみに合う看板にしましょう



サインやマップの色や書体に気を使う

サインやマップには注目を集めるために、明るい色や大きな文字を使ったものがあります。目立つサインやマップは分かりやすいのですが、乱立してしまうと、まちがまとまりのないものになってしまいます。

サインやマップに使う色は、落ち着いた色にしてみましょう。また、書体は明朝体や教科書体などまちなみになじむものにしてもよいでしょう。



△ まとまりのないまちなみになってしまいます



◎ サインによってまちなみがまとまります



藍色の標識を大切にする

津屋崎千軒の中には、木製の藍色の標識があります。この標識は、手づくりで作られたもので、旧町名などが記されています。旧町名は現在も親しまれています。木製なので、朽ちてなくなっているものもありますが、この木製の藍色の看板を守っていくことも津屋崎千軒の伝統を守っていくことのひとつとなるでしょう。



藍色の標識（北の二区、波折宮付近）



⑧ 広告物や看板はひと工夫する

まちなみに合うのれんやのぼりにする

まちの中に置かれるのれんやのぼりは、魅力的なまちなみを作るための重要な要素です。のれんやのぼりを置くときには津屋崎のまちなみに合う色や書体にしましょう。藍色をイメージカラーとして用いたり、明朝体を使ったりすると、まち全体の雰囲気にまとまりが生まれます。



△ まちなみからのぼりだけが浮いてしまいます



◎ 津屋崎の魅力を引き立てます

⑨ お店はまちなみと調和する



津屋崎の特徴を生かした空間にする

津屋崎の伝統的な店舗には土間があり、店先にはトコやバンコが置かれていました。この空間は、地域の交流の場としての役割を担っていました。現代でも土間、トコやバンコは、交流を生み出す効果的な空間となります。新しい店舗をつくるにも、土間やトコやバンコのような地域の交流を意識した空間を創造してみましよう。



◎ 土間・トコ・バンコを使うと津屋崎らしい空間になります

